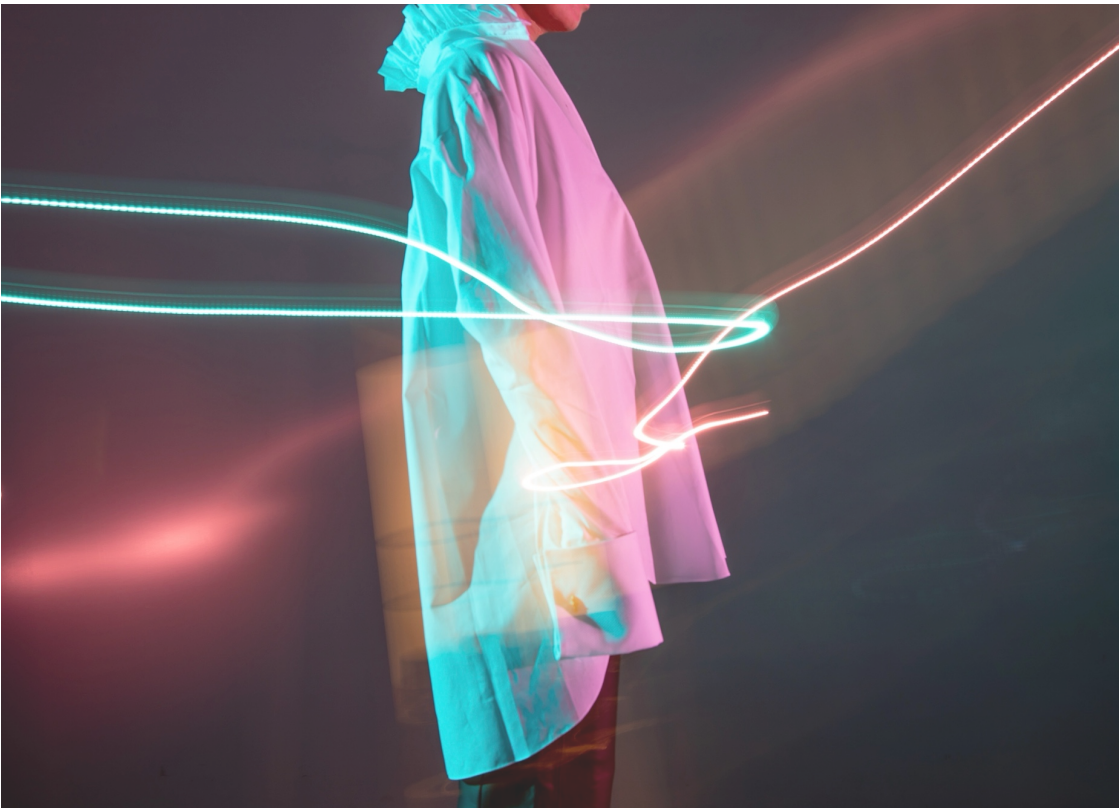
FROM ONE TO ANOTHER

N.003 Jun. ‘26

THE SALON by NORH は“お店”ではありません。
それは、時間と空間、そしてスタイルが静かに交わり漂うアトリエ。
予約という扉を開いたときだけそこに現れる、あなただけのための美しい風景です。

THE SALON by NORH is not a store—it's a fleeting atelier of time, space, and style, brought to life exclusively by appointment.



THE SALON

BY NORH

PEOPLE
FASHION PEOPLE

Epilogue

2026年。この時代が、未来にどのように見られ、理解されるのか。ふと、考えることがあります。人間とAIの関係や、SNSの見えない副作用について、これほど真剣に語る時代が来ると誰が想像したでしょうか。それでも私たちは、今まさにその只中にいます。だからこそ、恐れではなく、身近にいる大切な人たちと愛や感謝の中で生きる人に自然と心が惹かれます。

左の写真は、今年1月のパリで撮影したものです。高い天井に設置された鏡に映る自分の姿を見たとき、自分とこの世界を少し遠くから見つめているような、そんな感覚になりました。人生は恐れを抱き続けるには長くはありません。けれど、短すぎるわけでもない。

人生を輝かせ、互いを照らし、讃え合う。そのための時間は、きっと、私たちに与えられています。この美しい地球の上で、あたたかく、澄んだ風を感じられる場所を。そんな場所を、これからも一緒に見つけていけたらうれしく思います。

In 2026, I sometimes find myself wondering how this era will be seen and understood in the future. Who could have imagined that we would speak so seriously about the relationship between humans and AI, or the unseen side effects of social media? And yet, here we are—right in the midst of it. Perhaps that is why I feel naturally drawn to those who choose to live not in fear, but in love and appreciation, together with the people closest to them.

The photograph on the left was taken in Paris this January. When I saw my reflection in a mirror placed high on the ceiling, it felt as though I was observing both myself and the world from a slight distance—almost from somewhere beyond. Life is not long enough to remain in fear. And yet, it is not too short either.

To let it shine, to illuminate one another, and to honor each other— we are, perhaps, given just enough time. On this beautiful planet, there are places where we can feel a gentle warmth and a clear, fresh breeze. I would be happy if we could continue to find such places together.

THE SALON by NORH Director Hono Uehara

Creative Dialogue

Beyond the visible—
a dialogue of thoughts and creation.

SALLY SOHN

Sally Sohnはソウルを拠点とするハイジュエリーデザイナー。ロサンゼルスでジュエリーデザイナーとしてのキャリアをスタートし、ニューヨークのBergdorf Goodmanにて作品を発表しました。現在ではそのジュエリーは広く認知され、BLACKPINKやBTSのメンバーをはじめとする韓国のトップアーティストたちに着用されています。そのスタイルは、ファインジュエリーにさりげない遊び心を添えたもの。エレガンスの中に遊び心を感じさせます。

Sally Sohn is a Seoul-based high jewelry designer who began her career as a jewelry designer in Los Angeles and showcased her work at Bergdorf Goodman.Her pieces are now widely recognized and worn by leading Korean artists, including members of BLACKPINK and BTS.Her style blends fine jewelry with a subtle sense of play—elegance with a quiet twist of joy.

Q1. あなたのクリエイティビティが誰かを本当に支えたり、インスピレーションを与えたと感じた瞬間はありますか？

はい。あるクライアントが、私のデザインしたジュエリーを受け取ったとき、涙を流したことがありました。「これはただのリングじゃない。私の物語そのもの」と言ってくださったんです。その瞬間、創造性の本質は「印象づけること」ではなく、「誰かの真実を受けとめ、包み込むこと」にあるのだと気づきました。そうしたつながりは、どんな宝石よりも尊いものです。

Is there a moment when you felt your creativity truly supported or inspired someone else?

Yes. One client teared up while receiving a piece I designed. She said, “This isn’t just a ring—it’s my story.” That moment made me realize that creativity, at its best, isn’t about impressing—it’s about embracing someone’s truth. That kind of connection is more precious than any gem.

Q2. ご自身がクリエイターとしての在り方を形成するうえで、大きな影響を与えた人との関係はありますか？

まずは母の存在です。彼女は、「誠実さは輝きよりも長く残るものだ」と教えてくれました。そしてもう一人、まだ名前もなかった頃に、私の才能とビジョンを信じてくれた最初のクライアント。彼女信頼によって、私は単に“ものを作っている”のではなく、“意味にかたちを与えている”のだと理解するようになりました。

Is there a particular relationship that shaped how you see yourself as a creator?

My mother, for one. She taught me that sincerity lasts longer than sparkle. And also, the very first client who believed in my hands and vision before there was a name. Their trust helped me understand I wasn’t just crafting things—I was giving shape to meaning.

Q3. ご自身のクリエイティブな活動を通して、どのような発見がありましたか？

美しさは、しばしば不完全さの中に宿るということです。宝石の中にある小さなインクルージョンが、その石を唯一無二の存在にするように。私は、デザインにおいても、自分自身においても、欠けや揺らぎの中にある優雅さを見つけるようになりました。いまは完璧を目指すのではなく、人間らしさを感じられるものを大切にしています。

What is something meaningful you've discovered about yourself through your creative work?

That beauty often lies in imperfection. Like the tiny inclusions in a gemstone that make it unique, I've learned to find grace in the flaws—both in my designs and in myself. I no longer strive for perfection, but for pieces that feel deeply human.

Q4. 今、どんなにニッチでも少し不思議でもいいので、夢中になっているものは何ですか？

経年したゴールドが、少しずつ輝きを失っていくその変化です。そこには、時間がもたらす温かさや、やわらかな質感があります。最近はそのニュアンスに惹かれていて、デザインにも影響を与えています。どんなに光り輝くピースでも、そこに静けさや奥行きを加えてくれるんです。

What's one oddly specific thing you're obsessed with right now (no matter how niche or strange)?

The way aged gold loses its shine. There's a warmth to that patina—a softness time leaves behind. I find myself drawn to it lately, and it's started to influence the way I design, adding stillness and depth to even the brightest pieces.

Q5. 「これが自分なのだ。単に歩むのではなく自ら築くように定められた道なのだ」と感じた瞬間はありますか？

初めてジュエリーに「Sally　Sohn」と自分の名前を刻んだときです。それは単に美しいものを作ることではなく、記憶や感情、そしてアイデンティティを宿す器を生み出すことでした。そのとき確信しました。これは見つけた道ではなく、自分で切り拓いていく道なのだと。

What made you feel like, "Yes, this is *me*—this is the path I was meant to build, not just walk"?

The first time I engraved the name "Sally Sohn" onto a piece of jewelry. I wasn't just making something beautiful—I was creating a vessel for memory, emotion, and identity. That was the moment I knew: this is not a path I found; it's one I'm carving.

Q6. あなたを「今ここ」に引き戻してくれる音や香り、または物はありますか？

石が金属に触れるときの、あのかすかな音。あるいは、手で線を引くときに生まれる、静かな緊張感。そうした小さくリズミカルな瞬間の中で、私は最も“いま”に在ると感じます。完全に静かでありながら、同時に強く生きている感覚です。

Is there a sound, scent, or object that instantly grounds you?

The subtle sound of a stone touching metal. Or the quiet tension of a hand-drawn line on metal. In those small, rhythmic moments, I feel most present—completely still, yet fully alive.

Life & Fashion Column

Hono Uehara

note

substack

2026年4月、私は「Life & Fashion」と題したコラムの連載を始めました。

この業界で長く過ごす中で、
人が本当に必要としているのは、情報の多さではなく、
“方向感覚”のようなものなのではないかと感じるようになりました。

それは、時代の流れとともに潮のように移り変わるファッションを理解するためのコンパス。
与えられるものではなく、自ら感じ、気づき、理解していくための視点です。

ファッションは、いつも身近にあるのに、
どこかつかみがたく、雑多で、難しく感じられているような気がします。
どう選べばいいのか。どう楽しめばいいのか。
どう自分のものにしていけばいいのか。

けれど、ほんの少し見方が変わるだけで、
理解は深まり、距離はぐっと近づき、
ファッションは人生の頼もしい味方へと変わっていきます。

このコラムでは、これまでの経験に加え、
私自身の「見方」もお届けできたらと思っています。

ファッションが、あなたの人生に寄り添い、
そっと背中を押してくれる存在になりますように。

In April 2026, I began writing a column on *Life & Fashion*.

Through many years in this industry,
I have come to feel that what people truly need is not an abundance of information,
but rather a sense of direction.

Something like a compass—
to help navigate and understand fashion as it shifts—like the tide, over time.

Not something given, but a way of seeing—
to feel, to notice, and to understand for oneself.

Fashion is always close to us,
and yet, it can feel elusive, overwhelming, and at times, difficult to grasp.
How should we choose? How should we enjoy it?
How do we make it our own?

And yet, with even a slight shift in perspective,
understanding deepens, distance dissolves,
and fashion becomes a trusted companion in life.

Through this column, I hope to share not only my experience,
but also a way of seeing. So that fashion may gently accompany your life,
and quietly support you, when you need it.

毎週水曜日に投稿しています。日本語バージョンはnote、英語バージョンはSubstackにて。ぜひ、ご購読ください。

Before Style, There Is Awareness ーリフレクションを通して自分のゴールを見つけるー

私たちは自分自身を知るときに、実はひとつの矛盾を抱えています。それは自分自身だけは直接見ることはできないということ。見えるのは、自分自身が鏡やウィンドウ、画面に映るその「反射」だけ。でも、もしかすると取り巻く周りも含めて一緒に見える「反射」であるがゆえに、自分の在り方と客観的に向き合うにはむしろ都合がよいのかもしれません。

さて、その自分の在り方、つまりスタイルを考えるとき、一旦停止して、なりたい自分を考えてみることは、ファッションの、そして人生の大切なスタート地点です。

喧騒や流れていく時間から離れ、一旦立ち止まる、その意味で「瞑想」もファッションと切り離せません。むしろとても有効な手段です。目を瞑り、内側の自分と静かに向き合い、「心地いい」と感じるものと「そうでない」ものをあるがままに認識する。心の声に耳を傾けることからあなたのゴールは輪郭を持ちはじめます。一旦、白紙になるために、瞑想は、その準備のようなものです。

そして、実際になりたい自分像を描くには様々なアプローチがありますが、まずは、日々の中で出会うもの—見るもの、聞くもの、触れるもの、香り、味、感覚を意識して受け止めてはどうでしょう。

アンテナを張り巡らせ、ほんの少しだけ立ち止まり、自分に静かに問いかけてみてください。
「これは好き？それとも何か違う？」アートでも、雑誌でも、会話でも、服でも、空間でも。すべてがヒントになります。大切なのは引き合うものが何かを見つける、その「素直な感覚」です。ジャッジ（判定）ではなく、リフレクション（反射）。自分との小さな対話を積み重ねることで、今の自分の位置、つまり好みや感度、ステージが見えてきます。

ただ、ここで知っておきたいのは、そのステージは固定されたものではないということ。

時間とともに、経験とともに、そして内側の変化とともに移り変わっていきます。だから今は違和感があるものも、否定しない（ジャッジしない）ことも大切なのです。そしてもうひとつ、あなたの中に変化が起こります。この気づきの練習を重ねるほどに、感覚は研ぎ澄まされていきます。同時に、自由も手に入ります。なぜなら、否定するものがなくなり、好きなものが理解でき、もう手探りではなくなるから。

自分の中に「軸」が生まれ、そこから広がるように受け入れ、選び、表現できるようになる。

これこそがファッションの面白さのひとつです。

ファッションは同時に二つのことを求めます。

ひとつは自分自身をはっきりと見ること。今の自分の心地よさ、自然な状態、好み。もうひとつは世界に目を向けること。その動きやムード、微細な変化。単なる「トレンド」ではなく、空気としての流れを感じること。その二つのあいだに軸をもったあなたの存在は自然と立ち上がってきます。

さて、自分の「好き」をよりはっきりと認識するために、小さなアルバムや日記をつけることをおすすめします。

心に引っかかったものを集めて、そこに自分の言葉、好きな理由を添えてみてください。私自身は、かなりアナログな時代でしたが雑誌をスクラップしてそこにコメントを書き込んでいました。やり方に正解はありません。好きなものを見つけたら、「いいね」を押すように密かにダブルクリックしてみる、というのも簡単に好きを自覚するのに役立ちます。自分自身にサインを送ってみると感覚が意識に上がります。

大切なのは、誰の真似でもなく、あなた自身に合う、気持ちよく続けられる方法を見つけること。

Before Style, There Is Awareness　スタイルを追求する前に、まずは気づきを。

あなたの旅が美しいものになりますように。

Before Style, There Is Awareness - How to Find Your Personal Goal Through Reflection First Audience

When we try to understand ourselves, we hold a quiet contradiction: we cannot see ourselves directly. What we see is only a reflection—in mirrors, in windows, in screens. And yet, perhaps it is precisely because it is a reflection—one that includes the world around us—that it allows us to see ourselves more objectively.

When thinking about your way of being—your style—it is essential to pause and reflect on who you want to become. This is the true starting point of both fashion and life. Step away from the noise and the constant flow of time. Pause.

In this sense, meditation is not separate from fashion—it is, in fact, a powerful tool. Close your eyes. Turn inward. Notice what feels "right" and what does not, just as it is. As you begin to listen to your inner voice, your personal goal starts to take shape. Meditation is like preparing a blank canvas—a quiet reset before creation begins.

To imagine who you want to become, start by becoming aware of what you encounter each day—what you see, hear, touch, smell, taste, and feel. Let your senses stay open. Pause, even briefly, and ask yourself: Do I like this? Or does something feel off?

Art, magazines, conversations, clothing, spaces—everything can become a clue. What matters is your honest response—what naturally resonates with you. Not judgment, but reflection. By accumulating these small dialogues with yourself, you begin to see your current position—your preferences, your sensitivity, your stage.

And know this: that stage is never fixed. It shifts quietly with time, experience, and inner change. Even what feels unfamiliar now does not need to be rejected.

As you continue this practice of quiet awareness, your senses become sharper. At the same time, you gain freedom. Because you no longer reject, you begin to understand what you love—and you are no longer searching blindly. A center forms within you. From there, you can accept, choose, and express. This is one of the true pleasures of fashion.

Fashion asks two things of you at the same time: to see yourself clearly—your comfort, your natural state, your preferences—and to look outward toward the world, its movements, its subtle shifts. Not trends, but the atmosphere of the moment. Between these two, your presence begins to emerge—naturally, and with clarity.

To recognize your "likes" more clearly, I recommend keeping a small album or journal. Collect what catches your attention, and add your own words—why you like it. In my case, I used to cut out pages from magazines and write notes directly onto them. There is no right method. Even something as simple as "double-clicking" what you like—as if tapping a like button—can help bring awareness to your feelings. Send a signal to yourself.

The key is to find a way that feels natural to you—something you can continue with ease. If you begin this practice, I would love to hear how you started.

May your journey be a beautiful one.

Effortless Is Earned ーさりげなさは、つくられるー

以前、インタビューでこんな質問を受けたことがあります。「あなた自身、そしてお客様にとっての理想のスタイルとは？」私の答えは、いつも同じです。

自分に自信を持ち、自分自身で在る人。

一見すると、とても当たり前で、ファッションとは関係のない答えに聞こえるかもしれません。けれど、私たちが感じる「存在感」は、装いと切り離すことができません。スタイルとその人は、いつも互いに影響し合っています。ここでいう「自信」は、目立つことでも、強く主張することでもありません。もっと静かなものです。自分の理想の状態に、自然と馴染んでいること。何かになろうとするのではなく、すでにそこに在る、という感覚。

そして、そこにこそスタイルの役割が現れます。本当に魅力的なスタイルは、服そのものを見せるものではありません。その人自身を、よりクリアに浮かび上がらせるもの。ファッションは主役ではなく、一歩引いて、その人を引き立てる存在です。

だからこそ、「さりげなくおしゃれ」は難しい。

自然に見えるものほど、偶然ではありません。とくに、シンプルであればあるほど。例えば、白いTシャツに、デニム。それだけで素敵に見える人がいます。それは生まれもったものだけではできません。

本当の理由は、こだわりがたくさん詰まっているから。

例えばしっかり目の詰まったチョークホワイトの素材を選ぶか、もしくは、VintageTシャツのようなちょうどよくくたびれた素材を選ぶか、詰まった襟か、ボートネックか袖の長さが二の腕が隠れるくらいのフレンチスリーブか、ベーシックな半袖、もしくは５部袖、着丈の長さやヘムの幅……．などなど。キリがないほどチョイスがあるのです。そして、選んだそのTシャツから滲み出てくる雰囲気をヘアやメイクや着方、ボトム、もしくはアクセサリーで味付けする。どこで止めるかも重要です。シンプルでおしゃれに見える人にはそんな積み重なったこだわりが随所に詰まっているのです。そして私たちは、不思議なほど一瞬でそれを感じ取ってしまうのです。そこに、どれだけの意識があるかを。

少し、料理に似ています。シンプルな料理ほど、ごまかしがききません。一口でわかる。素材の質も、かけられた時間も、つくり手の意図も。ふわりと、なぜか伝わってくる。

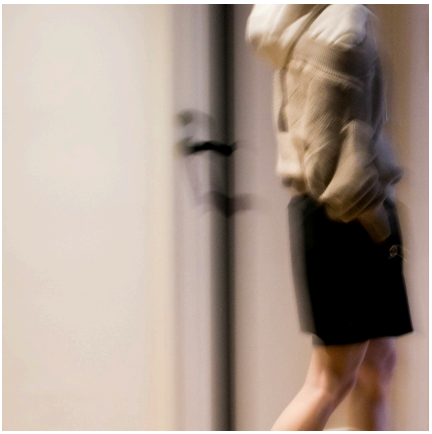
スタイルも、同じです。さりげなくおしゃれに見える人は、実はとても多くのことを積み重ねています。微細な違いに気づき、調整し、何度も試してきた人。その積み重ねが、やがて板についてきます。そして、その在り方こそが、スタイルです。

育った環境やきっかけによって、早くからその感覚を身につける人もいます。けれど、そうでなくても大丈夫。気づいたときが、始めどきです。

まずは、今持っているものを見てみましょう。きちんと、目を向けて。それは、物語を持っていますか。意図を感じられますか。これからも一緒に時間を重ねたいと思えますか。もし「なんとなく」選んできたものが多いと感じたら、それもまったく問題ではありません。それは、出発点です。ここから、選び方を少し変えていくことをお勧めします。もう少し丁寧に。もう少し自分のために。そうして集まったものたちは、やがてただの服ではなくなります。あなたの相棒になります。静かに支え、感性を磨いてくれる存在に。

気がつけば、あなたは少しずつ、空気を感じ取れるようになっているはずです。時代の流れや、今の気分を。追いかけるのではなく、自然と捉えられるように。

Effortless is Earned.さりげなさは、 つくるものではなく、あなたの中に、 静かに育っていくものなのです



Effortless Is Earned ;What looks effortless is always carefully lived

I was once asked in an interview: “What is the ideal style—for you, and for your clients?” My answer has always been the same: a person who is confident, and fully themselves.

At first, it may sound obvious—perhaps even unrelated to fashion. But the presence we feel in someone can never be separated from what they wear. Style and the person are always in dialogue.

Here, confidence does not mean standing out or asserting oneself strongly. It is something quieter: a state of naturally settling into one’s ideal self—not trying to become, but simply being. And that is where style begins to matter.

A truly compelling style does not showcase the clothes. It reveals the person more clearly. Fashion is not the protagonist; it steps back, allowing the individual to come forward.

This is why “effortless style” is so difficult. What appears natural is never accidental—especially when it is simple. Take a white T-shirt and denim. Some people look undeniably good in just that. But it is not something one is simply born with.

The truth is, it is built on countless decisions: the density of the fabric, the neckline, the sleeve, the cut, the hem, the proportion. Then comes refinement—how it is worn, balanced with hair, makeup, bottoms, and accessories. Even where to stop is a decision.

Those who appear effortlessly stylish carry layers of intention within what seems simple. It is a bit like cooking. The simpler the dish, the less it can hide. In one bite, you understand the quality of the ingredients, the time spent, and the intention of the maker.

Style works the same way. Those who appear effortless have accumulated countless small adjustments. They notice subtle differences, refine them, and repeat the process over time. Eventually, it settles into them. And that state is style.

Some may acquire this sensitivity early through environment or experience. But even if not, it does not matter. The moment you notice, that is your beginning.

Start by looking at what you already have. Really look. Do these pieces carry a story? Can you feel intention in them? Do you want to continue your time together?

If you realize many were chosen without much thought, that is not a problem. It is simply your starting point. From here, begin to choose differently—a little more carefully, a little more for yourself.

What you gather in this way will no longer be just clothes. They become companions, quietly supporting you and refining your sensitivity. And before you know it, you begin to sense the atmosphere—the movement of time, the mood of the moment. Not by chasing it, but by naturally recognizing it.

Effortless is earned.

Effortlessness is not something you create. It is something that quietly grows within you.

Ambientec
Interview

Dialogue of Light

Yoshinori Kuno | CEO / The Founder of Ambientec

Q1. 形になる前の段階で、あなたにとって「光」は何かを始める存在ですか？それとも、すでにそこにあるものを明らかにする存在ですか？
ー私にとっての光は、2つの性質があります。一つは光っているもの自体を指す場合、そこには何かがあるわけではなく現象としての美しさがあります。また、なにかを照らす光は人の気配や素材の質感を浮かび上がらせる存在です。

Q.2. 光は、空間の中で人が感じる時間の流れをどのように変えると思いますか？
ー光は時間の流れを大きく変えます。明るく均一な光の中では、人は活動的になります。
作業をしたり、移動したり、物事をはっきり判断するには適していますがその分、時間は少し速く流れるように感じます。一方で、夕焼けのように周辺が少し暗く暖かいに色の光の空間は人の感覚を落ち着かせます。さらに、闇の中に灯る光は想像力や集中力が増して時間はゆったりと流れます。

Q3. 光を扱う中で、最も難しい判断は何ですか？そして、その判断を導くものは何でしょうか？
ー現代の技術では、光はどれだけでも明るくすることができ、何色にも変化させることが可能です。光は音と似ていて、足しすぎるとノイズにもなるし光色の混ざり方で不協和音のような不快さを感じることがあります。判断として最も基本的なことは、自然光によってどのような環境が人によって心地よいかを思う浮かべるようにしています。また、エモーショナルな光はその光を見た瞬間、感じた瞬間の直感が全てを物語っているような気がしています。

Q.4. 記憶の中に残る光には、どのような特徴があると思いますか？なぜその光景は、時間が経っても消えないのでしょうか。
ー記憶に残る光の特徴は、光だけではなくその時に感じた香りや音、味などにも大きな影響を受けているような気がします。人間の五感のうちいくつかの要素と組み合わさった光は容易く記憶から消えるものではありません。

Q5. 光は、あなたの心の状態にどのような影響を与えると思いますか？目に見えるものを超えて、思考や感情に変化をもたらすことはありますか？
光は、心の状態にとても大きく影響すると思っています。たとえば、晴天の日中のように強く明るい光の中では、意識が外に向かい、活動的になります。一方で、やわらかく抑えられた光の中では、気持ちが落ち着き、自分の内側に意識が向いていきます。その場にいる人の会話のトーン、考え方の深さまで変えてしまうこともあります。アンビエンテックが実現したい灯は、後者でエモーショナルな感覚的な光です。

Q6. 今回のコラボレーションを通して、どのような体験を期待していますか？
Simonさんの作品には、単なる装飾ではなく素材の強さや繊細さ、手仕事の痕跡、そして身につける人の個性を引き出すような存在感があります。そこにAmbientecの光が加わることで、ジュエリーの見え方が変わり、ジュエリーによって光の表情が変わることが想像できます。それらのその相互作用を通して、物と光、人と空間の関係を、より静かに、より親密に感じてもらえたらと思っています。

Before it takes form, do you experience light as something that initiates, or something that reveals what is already there?

- For me, light holds two qualities. When we speak of something that emits light, there is not necessarily "something" there—it is a phenomenon, a kind of beauty in itself. At the same time, light that illuminates something reveals the presence of people and the texture of materials. It brings them into perception.

How does light change the way people experience time in a space?

- Light has a profound effect on the flow of time. In bright, even lighting, people tend to become more active. It is suitable for working, moving, and making clear decisions—but time also feels as though it passes more quickly. In contrast, spaces with warmer, slightly dimmed light—like the glow of a sunset—calm the senses. And in darkness, where a single light is present, imagination and concentration deepen, and time begins to feel slower, more expansive.

When working with light, what is the most difficult decision you have to make? And what guides that decision?

With modern technology, light can be made as bright as desired and shifted into any color. In this sense, light is similar to sound—too much of it becomes noise, and certain combinations of tones can create a kind of visual dissonance that feels uncomfortable. The most fundamental judgment is to imagine what kind of environment, shaped by natural light, feels comfortable to people. At the same time, when it comes to more emotional lighting, I feel that the instant you see it—the moment you feel it—your intuition already contains the answer.

What characterizes the light that stays in our memory? Why do certain scenes of light remain with us, even as time passes?

The light that stays in our memory is never just light alone. It is deeply influenced by the scents, sounds, and even tastes we experienced in that moment. When light is intertwined with multiple senses, it does not easily fade. It remains—quietly, but persistently—within us.

How does light influence your state of mind?Can it shift the way you think or feel, beyond what is visible?

I believe light has a profound effect on our state of mind.For example, under strong, bright daylight on a clear afternoon, our awareness naturally turns outward, making us feel more active and energized. In contrast, within soft and subdued light, the mind begins to settle, and our attention shifts inward. It can even influence the tone of conversations and the depth of our thoughts in that space. The light that Ambientec seeks to create belongs to the latter — emotional, sensory light that quietly resonates with human feeling.

?Through this collaboration, what kind of experience do you hope people will have?

There is a presence in Simon's work that goes beyond mere decoration — a balance of strength and delicacy in the materials, traces of hand craftsmanship, and an ability to draw out the individuality of the person who wears it. When paired with Ambientec's light, the appearance of the jewelry begins to transform, just as the character of the light itself changes through the jewelry. Through this interaction, I hope people will experience the relationship between objects and light, and between people and space, in a quieter and more intimate way.

Before it takes form, do you experience light as something that initiates, or something that reveals what is already there?

- I do not think we perceive light before it takes form. We encounter it through its interaction with form, surface, and atmosphere. In my experience, light is an initiator as well as a revealer. It can reveal texture and atmosphere already present, but it can also initiate sensory experience: it can alter mood, regulate or dysregulate the nervous system, create feelings of comfort or discomfort, and shape how we remember a moment. In my work, I have come to realize that the same object or space can become entirely different through light. Light does not just expose; it also composes.

How does light change the way people experience time in a space?

- Light changes the tempo of our experience and can lead us to linger, pause, move more quickly, or feel suspended within a space. Daylight helps regulate our circadian rhythm, while sunrise, sunset, and moonlight affect how we experience time both physically and emotionally. Even scientifically, we comprehend vast distances through light and the time it takes to travel. Light is one of the clearest ways we register time.

When working with light, what is the most difficult decision you have to make? And what guides that decision?

- The most difficult decision is calibration: finding the right balance so that the light feels harmonious rather than over-controlled. The goal is for the light to feel discovered, not imposed. What guides that decision is whether the light enhances the material, the space, and the atmosphere without overpowering them. Light that is well composed leaves no evidence of having been calibrated.

What characterizes the light that stays in our memory? Why do certain scenes of light remain with us, even as time passes?

- What characterizes memorable light is not a technical property, but a felt condition. It is not necessarily the light itself that we remember, but how we felt within the atmosphere that contained it. The emotions and sensations we experienced in those moments can remain with us for a lifetime.

How does light influence your state of mind?

- Can it shift the way you think or feel, beyond what is visible?Within a space, the atmosphere shaped by light can alter my mood and state of mind, and it can have a visceral effect on me. Beyond what is visible, light is felt in the body and in the nervous system. If it is not harmonious, I feel it immediately and will change it if I can. On a natural scale, experiencing sunrise or sunset is where the effect of light is most profound. It is an essential component of my well-being.

Through this collaboration, what kind of experience do you hope people will have?

- I hope that they will pause and notice the different elements of Dialogue of Light and feel beauty and harmony within the experience. I hope it raises questions, and that they leave surprised, delighted, and inspired.

Interview

Dialogue of Light

Simon Alcantara | Jewelry Artist

Q1.形になる前の段階で、光は何かを始める存在だと感じますか？それとも、すでにそこにあるものを明らかにする存在でしょうか？

形になる前の光を、私たちはそのまま知覚しているわけではないと思います。形や表面、空気との関係の中で、光ははじめて私たちに現れます。私の感覚では、光は「始めるもの」であり、同時に「明らかにするもの」でもあります。すでにそこにある質感や空気を浮かび上がらせる一方で、感覚的な体験そのものを生み出すこともあります。気分を変え、自律神経に作用し心地よさや不快感をもたらし、そして記憶のあり方までも形づくります。これまでの仕事を通して、同じ物や空間でも、光によってまったく異なるものになることを実感してきました。光は単に照らすのではなく「構成する」存在でもあるのです。

Q2.光は、空間の中で人が感じる時間の流れをどのように変えると思いますか？

光は体験のテンポを変え、私たちを留まらせたり、立ち止まらせたり、あるいは速く動かしたり、空間の中に浮遊しているような感覚をもたらします。自然光は私たちのサーカディアンリズム（概日リズム）を整え、日の出や日の入り、月明かりは、身体的にも感情的にも時間の感じ方に影響を与えます。また、科学的に見ても、私たちは光とその到達にかかる時間を通して、広大な距離を理解しています。光は、時間を認識する最も明確な手がかりのひとつです。

Q3.光を扱う中で、最も難しい判断は何ですか？そして、その判断を導くものは何でしょうか？

最も難しいのはキャリブレーション（チューニング）、つまり光のバランスをどこで取るかという判断です。過度にコントロールされた印象ではなく、自然に調和していると感じられる状態を見極める必要があります。光は“与えるもの”ではなく、“見出されるもの”として感じられるべきだと思っています。その判断の基準は、光が素材や空間、そして空気感を損なうことなく引き立てているかどうかです。主張しすぎることなく、それらを支えているかどうかを見ます。よく整えられた光は、調整された痕跡を感じさせません。

Q4.記憶に残る光には、どのような特徴があると思いますか？

なぜある光景は、時間が経っても消えないのでしょうか。記憶に残る光の特徴は、技術的な性質ではなく「体験としての状態」にあると思います。私たちが覚えているのは、光そのものというよりも、その光に包まれた空間の中で自分がどう感じていたかです。そのときに生まれた感情や感覚は、長い時間を経ても消えることなく静かに残り続けます。

Q5.光は、あなたの心の状態にどのような影響を与えますか？目に見えるものを超えて、思考や感情に変化をもたらすことはありますか？

空間の中で光がつくる雰囲気は、私の気分や意識の状態を変え、身体的にも強く作用します。目に見える以上に、光は身体や神経に直接働きかけるものです。もし調和が崩れていれば、それをすぐに感じ取り、可能であれば調整します。自然の中で言えば、日の出や夕暮れを体験する瞬間に、光の影響は最も強く現れます。それは私にとって、心身のバランスを保つために欠かせない要素です。

Q6.このコラボレーションを通して、人々にどのような体験をしてほしいと考えていますか？

訪れた方々が一度立ち止まり、「Dialogue of Light」を構成するさまざまな要素に気づき、その中にある美しさや調和を感じていただけたらと思います。そして、その体験が新たな問いを生み、驚きや喜び、そしてインスピレーションを持って帰っていただけたら嬉しいです。

Interview DIALOGUE OF LIGHT

Christopher Miranda | Artist

Q1.形になる前に、光は何かを始める存在ですか？それとも、すでにそこにあるものを明らかにする存在ですか？

光は、そこに“たどり着く”もののように感じます。始まりというより、明らかになるもの。もともとそこにあって、ただ、それを見えるようになっていく。

Q2.光は、空間の中で人が感じる時間の流れをどのように変えますか？

光はテンポを決めます。柔らかい光は、すべてをゆっくりにする。強い光は、エネルギーを前に進める。同じ空間でも、時間の流れが変わる。

Q3.光を扱う中で、最も難しい判断は何ですか？そして、その判断を導くものは何でしょうか？

いちばん難しいのは、手を加えすぎないこと。光を、そのままにしておくこと。本来の性質に従い、必要以上に強くも弱くもしない。

Q4.記憶に残る光には、どのような特徴がありますか？なぜその光景は時間が経っても消えないのでしょうか。

記憶に残る光は、静かです。ひらかれていて、動かず、無理がない。それは振動のように、時間の中に残り続ける。

Q5.光は、あなたの心の状態にどのような影響を与えますか？見えるものを超えて、思考や感情を変えることはありますか？

思考のあり方が変わります。光の中にいると、散らばっていたものが収まり、無理なく整っていくように感じます。

Q6.このコラボレーションを通して、どのような体験を人々にしてほしいと考えていますか？

静かに、安定した感覚であってほしい。説明しなくても、どこかでわかるようなもの。

Before it takes form, do you experience light as something that initiates, or something that reveals what is already there?
- Light feels like something you arrive at. Not a start, but a reveal. It's already there, you just learn how to see it.

How does light change the way people experience time in a space?
- Light sets the tempo. Soft light slows everything down. Stronger light moves energy forward. Same space, different timing.

When working with light, what is the most difficult decision you have to make? And what guides that decision?
- The hardest part is not overworking it. Letting it stay honest. To follow its natural qualities, To not make it louder or softer than it already is.

What characterizes the light that stays in our memory? Why do certain scenes of light remain with us, even as time passes?
- The light that stays is quiet. Open, still, not forced. It can feel like a vibration that stays with you through time.

How does light influence your state of mind? Can it shift the way you think or feel, beyond what is visible?
- It shifts how I think. When I'm in the light, I'm less scattered, more focused. Like things fall into place without effort.

Through this collaboration, what kind of experience do you hope people will have?
- I want it to feel steady. Something you recognize without needing to explain it.

STYLE CHAT

Membership Salon THE SALON by NORHへの入り口

Style Chat（スタイルチャット）は、30分無料オンラインカウンセリング。自分のスタイルを見つめ直したいけれど,どこから始めればいいか分からないそんな方のための最初の一歩です。

お話を通して、あなたのライフスタイルや美意識を丁寧に伺い、最適な次のステップ（ワードローブ分析、イメージディレクション、サロンでのスタイリングなど）をご提案します。

Style Chatは、“ひとり”から“もうひとり”へ 迷いから確信へ、好奇心から自信へとつなぐ扉です。
THE SALON by NORHとの出会いは、ここから始まります。

The Gateway to THE SALON by NORH

Style Chat is a complimentary 30-minute online consultation — the first step toward discovering your personal style through THE SALON by NORH. A gentle starting point for those who wish to refine their style, but aren't sure where to begin. Through a simple conversation, we listen to your story, lifestyle, and aesthetic concerns, and suggest the best next step — whether wardrobe analysis, image direction, or in-salon styling.

Style Chat connects “one” to “another” — from uncertainty to clarity, from curiosity to confidence.
It is the gateway to THE SALON by NORH.

こんなふうに感じていたら

「私のスタイルは、私の何を語っているのだろう？」
→ まずは パーソナル・イメージ・ディレクション から。今のスタイルにすでに宿るメッセージを読み解き、本当に伝えたい印象へと整えていきます。

「ずっと愛せる、本当に良い服を賢く選ぶには？」
→ おすすめは パーソナル・バイイング。日々の暮らしやあなたの価値観に寄り添いながら、スタイルの核となる一着を一緒に選びます。

「今ある服を、新しい気分で着こなすには？」
→ クローゼットに魔法をかける スタイル・レッスン を。重ね方、組み合わせ、着こなしの工夫で、見慣れた服に新しい命を吹き込みます。

「アクセサリーを、ただの飾りじゃなく意味のあるものにしたい。」
→ スタイル・レッスン や パーソナル・バイイング で、装いの句読点となるジュエリーやバッグ、小物を選びましょう。

「忙しい毎日でも、自分らしくいられる服が欲しい。」
→ パーソナル・イメージ・ディレクション と、必要であれば日々のコーディネート提案もご相談いただけます。心が整えば、スタイルにも迷いがなくなります。

「黒だけ、白だけ、やわらかな色だけ——でも今っぽく、洗練された印象にしたい。」
→ そんなあなたには パーソナル・バイイング。色・素材・シルエットを今のムードに重ね、“好き”と“似合う”を両立するスタイルをご提案します。

What You Might Be Wondering...

“What is my style quietly saying about me?”
→ Let’s begin with a Personal Image Direction —a one-on-one session to understand the message your style already holds, and what story you long to tell through it.

“How can I choose wisely — pieces that endure, uplift, and truly belong to me?”
→ Explore a Personal Buying experience —where each item is selected with purpose, supporting both your lifestyle and your evolving image.

“How do I bring fresh life to what I already own?”
→ A Style Lesson can reawaken your wardrobe —revealing new combinations, updated silhouettes, and unexpected joy.

“How can accessories speak — not loudly, but meaningfully?”
→ Let’s curate your punctuation through a Style Lesson or Personal Buying, focusing on jewelry, bags, and details that transform without shouting.

“What do I wear when the days are full, but I still want to feel like myself?”
→ Let me craft a rhythm for you with Personal Image Direction and optional daily styling suggestions. Clarity brings ease — and confidence follows.

“Where do I begin when all I crave is black — or white — or soft, pale hues that still carry presence?”
→ A Personal Buying session can help refine your vision.We’ll translate color, mood, and form into a style that feels like home.

THE SALON

BY NORH